

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	黒羽地区 （黒羽田町・八塩・北滝地区）	令和3年3月25日	令和4年2月10日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	128.90 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	98.57 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	36.21 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.95ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 （備考）	21 ha

2 対象地区の課題

<p>黒羽田町地区は農地・農家共に少なく、他地区からの耕作者が多いため、水路の管理を自治会で行っている。</p> <p>八塩地区は一部の用水の賦課金が高く、米価が下落している今では営農継続に限界がある。組合や法人がなく個人経営となっており、5年後、10年後の状態には不安がある。獣害（イノシシ）が山沿いを中心に発生している。</p> <p>北滝地区は昔から災害が多く山間地は特に排水が悪いため、水稻以外の作物を作ることが難しい。また、畦畔が多く草刈が大変である。高齢化が進行しており、多面的機能支払の活動等にも影響を及ぼしている。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>地域農業を守っていくためにも組織化、法人化が有効な手段の一つであり、集積・集約化に向けて行政からのフォローアップをもらいつつ実現に向けた検討をしていく。</p>
<p>黒羽田町・八塩地区では耕作条件は良くないので、基盤整備の実現が重要になる。他地区からの担い手の受け入れを推進するためにも、地元負担の少ない基盤整備の方法を模索し、実現に向けた検討を重ねていく。</p>
<p>北滝地区では、隣接する片田地区と共同で集団化を図り、担い手へ集積・集約化を図っていく。また、機械利用組合を維持しつつ地区の担い手2名を中心に集積・集約化を進めていく。</p>

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p>基盤整備への取組方針</p> <p>黒羽田町・八塩地区では、農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を進めていく。</p>
<p>営農組合等の設立への取組方針</p> <p>北滝地区では、隣接する片田地区と共同で組合を立ち上げて営農できれば効率的である。今後、実現に向けた検討をしていく。</p>